

地域における多職種連携による口腔機能発達支援の取り組み 第2報

Regional approach for oral function development support
through multidisciplinary cooperation 2nd

○赤井 綾美, 小石 剛*

Ayami, Akai, Gou Koishi*

(NPO 法人ウェルビーイング, *池田市歯科医師会)

【目的】近年子ども達にはう蝕罹患の格差がみられ,また子どもに関わる専門職から「うまく食べられない・丸飲み・よだれが出る・口が開いたまま」等といった問題や困りごとが多く寄せられている。臨床においても噛み合わせや咀嚼に関する相談の割合は最も多いという¹⁾。また歯科口腔保健の推進に関する基本的事項(厚生労働省)においても,乳幼児期から良好な口腔・顎・顔面の成長発育及び適切な口腔機能の獲得を目指している。そのため池田市歯科医師会では,地域全体における子育て支援の一環として,口腔環境や口腔機能の発達への支援に対応していくため,地域における多職種による支援の体制の整備を目的にワークショップ形式による研修事業を継続して開催している。

【対象と方法】池田市内の子どもに関わる組織や職種を対象に,平成25年度から平成29年度に8回の研修を開催した。多職種がそれぞれの困り事や悩みの共有,顔の見える関係づくり,歯科専門職から歯科疾患や口腔機能の発達に関する情報提供を行った。また毎回研修事業の評価を行い,これまでに先駆的な事業の視察や池田市全域の保育士への研修を行ってきた。平成29年度に行った3回の研修では,それぞれの現場での口腔機能発達支援が具体的に進展するように,基本的な知識の整理と理解(第1回),事例とマニュアルをもとに具体的な支援方法を理解し実践できるようになる(第2回),各現場ですぐ実践できる具体的な支援方法や各事業の継続や展開に向けた計画(第3回)を目標として研修を行った。

【結果】8回の研修の参加者は延べ361名以上となり,連続参加者も増加した。これまでの参加職種は歯科医師,歯科衛生士,保育士,管理栄養士,栄養士,保健師,言語聴覚士,助産師,歯科助手,小学校・支援学校教員,医師,子育て支援職など幅広い職種であった。アンケートの結果より,研修は様々な立場で

の意見交換のもと多職種が交流する機会となり,乳幼児期における口腔機能発達支援の重要性について共通理解が得られたことが確認できた。また平成28年度には市の乳幼児健診事業および歯科医師会乳幼児歯科健診項目として口腔機能の発達評価を追加できた。

平成29年度に行った3回の研修のアンケートから,多様な現場での口腔機能発達支援の具体的な情報を提供できたことで,受講者の支援に対する効力感が高まったことが評価できた。



<図1>第8回研修会・多職種ワークショップの様子

【考察】平成25年度からの継続的な研修により,平成29年度の具体目標を設定した3回の研修の継続的な参加が得られ,さらに地域での多職種協働への推進力になったと考えられる。今後は,具体的な健診体制の整備と人材育成,新たな口腔機能の発達支援事業の展開等に向け,地域における保健専門職および子育てにかかわる団体等の関係者で構成するチームによるプロジェクト体制の整備を継続していく必要があると考える。

【文献】

- 1) 「子どもと保護者への食の問題に関する調査」
報告書: 日本歯科医学会, 2015